

教科	工業	科目名	インテリア製図	単位数	3
学科	インテリア科	学年	3 学年	履修区分	必須
使用教科書	インテリア製図 文部科学省				
副教材など					

1. 科目の目的

1・2学年で習得した知識及び技術を総合させ、木造住宅の設計を行う。課題内容からその条件に即した木造住宅を行うため、法規・構造・計画を十分にした上でエスキスを行い、プランの定義を理解し、計画的かつ正確に各図面を描く能力・センスを養う。

2. 授業の内容と進め方

前期は木造住宅の平面図及び矩計図までの模写を行い、手順・製図法から仕上げや構造にいたるまで図面から読み取る力を習得させる。後期は与えられた条件内での木造住宅の設計を行い、自らで考え1から図面を立ち上げかつプレゼンテーションする力を習得させる。

3. 学習する上での留意点

インテリア・住宅の総合的な知識（寸法・構造・法規等）が問われるため、個々の進行状況を把握し個別指導を徹底することでただ模写するだけの図面にならぬよう留意する。また、「インテリア計画」「インテリア装備」などの他教科との連携を計る。

4. 課題等について

- ・提示した課題を提出期限までに提出させる。
- ・授業で不足する時間は自主学習とする。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	木造住宅の設計について関心をもち、意欲的に学習活動を行い、期限内に課題を提出できるか。
思考・判断・表現	設計条件(法規・計画・構造)を十分に検討しているか。
技能	線の細太の区別をつけ、メリハリのある線を描き、かつ寸法・スケールが正しく表現されているか
知識・理解	製図及びエスキス段階において設計条件(法規・計画・構造)を十分に理解し、自分の考えを効果的に表現できているかを評価します。

6. 評価の方法

- 1) 各課題の提出状況及びその内容（設計条件の理解・図面の完成度・丁寧さ）により評価する。
- 2) 出席状況、学習意欲、学習態度、学習に取り組む態度を評価する。

《指導計画》 科目名 インテリア製図

3 学年

3 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1. 木造住宅模写 1.1平面図兼配置図	与えられた図面の模写を行うことにより、木造住宅の図面の表現方法、構造、スケールの習得をおこなう。	行動観察
	5	1.2断面図	居室や敷地内に建物がどの位置にあるかを示し、かつ柱の位置や窓、家具にいたるまでを表現した図面を描くことにより、適切な配置や線の太細の表現法を習得する。	課題提出
	6	1.3立面図(2面)	建築物の縦断面図に正面展開図をかき込んだ図面で、基礎地盤面・軒高・屋根勾配・床高など高さの概念を習得する。	行動観察
	7	1.4矩計図	窓の形状や床下・外壁・屋根などの、建築物外面の鉛直面への投影図で、外面の仕上げ材料の表現を習得する。 窓の形状や床下・外壁・屋根などの、建築物外面の鉛直面への投影図で、外面の仕上げ材料の表現を習得する。	
二 学 期	9	2. 卒業設計 エスキス	基礎・床高・天井高・内法高・軒・庇の出・各部材の名称材質・仕上げ法など、建築物の構造上基準となる部分の縦断面図を習得する。	課題提出
	10	平面図兼配置図	設計の段階でエスキスは重要な役割を持っておりその重要性を理解させ、決められた設計条件の中で自分の意図を最大限に表現し、プレゼンテーションする力を養う。	行動観察
	11	断面図	エスキスから図面を起こし与えられた敷地上に採光・駐車スペース・アプローチ方法を考慮しながら、丁寧に仕上げる力を養う。	課題提出
	12	立面図(2面)	平面から立体的に考え、主要構造部分の思考力・表現力を養う。	行動観察
三 学 期	1	2.5 矩計図 室内・外観パース	指示された範囲の矩計図（構造上標準となる部分の縦断面図）の室内外の仕上げを自ら考え描く。	行動観察
	2			課題提出
	3			